

宮私幼PTAだより

第 81 号

発行者 連合会
行先 PTA 美 者員
宮私幼 渥美 集委
会(会長) 編 集
広 報 委
事務局 青葉区国分町三丁目6-12 佐正第二ビル6F
仙台市青葉区国分町三丁目6-12 佐正第二ビル6F
電 話 (022) 263-7040 番



**震災の早期復興と
子どもたちの健やかな
成長を願い**

会長 渥 美 巖

第四十六回衆議院選挙では、全私幼連合会及び宮私幼振興対策協議会が推薦した、県内の自民党候補者六名全員が(五区は復活)当選。全体では、四百八十議席の過半数を超える三百二十五議席を獲得し、政権に返り咲きました。自民党の政策アクション教育再生では、「人づくりは国づくり」日本の将来を担う子供たちは「国の宝」とし、具体的には幼児教育の充実・強化と無償化を掲げています。国民との約束を守り、政治への信頼を回復してほしいと思います。

一方、県内私立幼稚園の園児数は、平成元年の三万五千六百九十三人をピークに減少し、現在は二万七千八百三十一人、ピーク時から七千八百六十二人、率にして二十二%減少しています。このように少子化の進行は、私立幼稚園の運営にも大きく影響し、近年は休園の幼稚園も出てきています。

宮私幼PTA連合会は、宮私幼連合会と一体となり、私立幼稚園の公的助成の増額、特に幼児の就園に伴う経済的負担を軽減するための県の運営費助成の増額と、市町村の就園奨励費の拡充を求め、去る一月八日、村井知事及び中村県議会議長に要望しました。

私たちは、東日本大震災で被災した方々の一日も早い復興と、子どもたちの健やかな成長を願い、親と地域と幼稚園の絆を深め、各々の役割を自覚し、その務めを果たさなければならぬと思います。共に頑張りましょう。



去る十月三日、仙台市民会館大ホールにおいて、平成二十四年度宮私幼教育振興大会並びに第四十四回宮私幼PTA研修大会を開催いたしました。当日は、たくさんのお母様・お父様方に参加して頂き盛大な大会となりました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

「高めよう絆を！子育ては、親と地域と幼稚園」というスローガンを掲げ開かれた第一部の教育振興大会には、ご多忙の中、村井嘉浩県知事と中村功県議会議長に御臨席を賜り、御祝辞を頂きました。お二方共に軽妙なジョークを交え、会場を和ませながら復興への強い決意と幼児教育の重要性を鑑み、私立幼稚園への支援を継続していく考えをお話して下さいました。

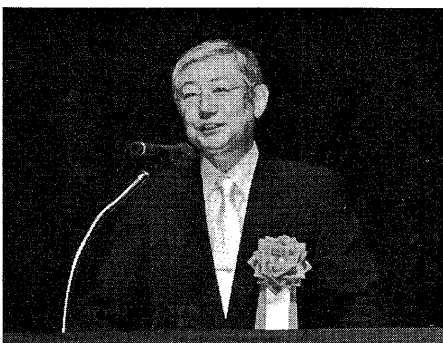
最後に、震災で被災した幼稚園と園児・保護者への継続的支援と幼児教育振興のための公的助成の拡充を関係機関に要望する大会宣言を採択し、第一部を終了しました。

続いて行われた第二部の研修大会では、木町通小学校長などを歴任され、現在は仙台市教育センター授業アドバイザーをされている平山敏正先生に「子育ては、拡大の目と望遠の目で」と題したお話を頂きました。先生はまず、「拡大の目」で子育てを考えると、長い教育現場での経験を基に、現在の親子の在り方の問題を指摘されました。近年、子供を大事にすぎず自分でやらせないため、自信ややる気が育っていない子が増えているというお話が、特に印象に残りました。

お話の後半は「望遠の目」ということで、将来を見据えた子育ての在り方のお話でした。しつけやマナーを教え込む「ティーチング」と、サポートしながらやる気を引き出す「コーチング」をバランスよく使い分けること。子供の話を良く聞き、我慢強く待つことの大切さ。子供時代に四つの体験(自然・社会・集団・忍耐)をさせようとのことでした。お話の中には我々親や教師が心すべきたくさん大切な教えが込められていました。先生は子育てを「風揚げ」に例えて、大空を自由に泳がせつつも、決して糸を放さず、サポートし続けましょうとお話になりました。子育ての本質を捉えた素晴らしい例えだと思いました。

お話の最後に、先生から「幼稚園の楽しさ」が「生きる喜び」に繋がりが、元気が出る人を作る場としての幼稚園の働きに期待するとう言葉頂きました。

近年、少子化や政治の混沌により、幼稚園の将来は不透明感を感じていますが、そんな中でも、子供たちへのより良き保育をという原点を大切にすることの重要性を再認識する一日となりました。



去る十月三日、仙台市民会館大ホールにおいて、平成二十四年度宮私幼教育振興大会並びに第四十四回宮私幼PTA研修大会を開催いたしました。当日は、たくさんのお母様・お父様方に参加して頂き盛大な大会となりました。紙面をお借りして御礼申し上げます。

「高めよう絆を！子育ては、親と地域と幼稚園」というスローガンを掲げ開かれた第一部の教育振興大会には、ご多忙の中、村井嘉浩県知事と中村功県議会議長に御臨席を賜り、御祝辞を頂きました。お二方共に軽妙なジョークを交え、会場を和ませながら復興への強い決意と幼児教育の重要性を鑑み、私立幼稚園への支援を継続していく考えをお話して下さいました。

最後に、震災で被災した幼稚園と園児・保護者への継続的支援と幼児教育振興のための公的助成の拡充を関係機関に要望する大会宣言を採択し、第一部を終了しました。

続いて行われた第二部の研修大会では、木町通小学校長などを歴任され、現在は仙台市教育センター授業アドバイザーをされている平山敏正先生に「子育ては、拡大の目と望遠の目で」と題したお話を頂きました。先生はまず、「拡大の目」で子育てを考えると、長い教育現場での経験を基に、現在の親子の在り方の問題を指摘されました。近年、子供を大事にすぎず自分でやらせないため、自信ややる気が育っていない子が増えているというお話が、特に印象に残りました。

お話の後半は「望遠の目」ということで、将来を見据えた子育ての在り方のお話でした。しつけやマナーを教え込む「ティーチング」と、サポートしながらやる気を引き出す「コーチング」をバランスよく使い分けること。子供の話を良く聞き、我慢強く待つことの大切さ。子供時代に四つの体験(自然・社会・集団・忍耐)をさせようとのことでした。お話の中には我々親や教師が心すべきたくさん大切な教えが込められていました。先生は子育てを「風揚げ」に例えて、大空を自由に泳がせつつも、決して糸を放さず、サポートし続けましょうとお話になりました。子育ての本質を捉えた素晴らしい例えだと思いました。

お話の最後に、先生から「幼稚園の楽しさ」が「生きる喜び」に繋がりが、元気が出る人を作る場としての幼稚園の働きに期待するとう言葉頂きました。

近年、少子化や政治の混沌により、幼稚園の将来は不透明感を感じていますが、そんな中でも、子供たちへのより良き保育をという原点を大切にすることの重要性を再認識する一日となりました。



**宮私幼教育振興大会並びに
宮私幼PTA研修大会を終えて**

エコールノワール幼稚園
研修部長 佐々木 拓 真

き出す「コーチング」をバランスよく使い分けること。子供の話を良く聞き、我慢強く待つことの大切さ。子供時代に四つの体験(自然・社会・集団・忍耐)をさせようとのことでした。お話の中には我々親や教師が心すべきたくさん大切な教えが込められていました。先生は子育てを「風揚げ」に例えて、大空を自由に泳がせつつも、決して糸を放さず、サポートし続けましょうとお話になりました。子育ての本質を捉えた素晴らしい例えだと思いました。

お話の最後に、先生から「幼稚園の楽しさ」が「生きる喜び」に繋がりが、元気が出る人を作る場としての幼稚園の働きに期待するとう言葉頂きました。

近年、少子化や政治の混沌により、幼稚園の将来は不透明感を感じていますが、そんな中でも、子供たちへのより良き保育をという原点を大切にすることの重要性を再認識する一日となりました。

第三十七回親善バレーボール大会

チームワークと絆のもとで

くり幼稚園 (P)

堀池 浩子



去年は震災の為に中止となりまして、宮私幼PTA連

合会活動の一大イベントである、第三十七回宮私幼PTA親善バレーボール大会が七十一チーム参加の下、十月十二日に開催されました。当日は、天候にも恵まれ早朝から運営に当たられた関係者の方のご尽力により盛大に大会を終了する事が出来ました。

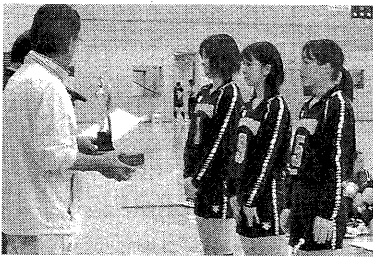
事前に行われましたチーム代表者による組合せ抽選会から沢山の皆様にご参加頂き、本大会に寄せた熱意をとて感じる事が出来ました。

試合が始まると、選手のみならず、会場に駆けつけた応援団も盛り上がり、共に優勝を目指し、熱い戦いがスタートしました。

どのチームも毎日の家事や子育てをしながらこの日の為に練習に励んできたことと思われませんが日頃の苦勞を忘れ、バレーボールに打ち込む姿は本当に輝いて見えました。試合当日が平日だった事もあり、お母さん

第37回宮私幼PTA親善バレーボール大会

ブロック	優勝	準優勝
A	しげる幼稚園	蒲町幼稚園
B	西多賀幼稚園	南光紫陽幼稚園
C	なとり幼稚園	岩沼西こぼと幼稚園
D	若林幼稚園	いずみ松陵幼稚園
E	泉の杜幼稚園	袋原幼稚園
F	くり幼稚園	福聚幼稚園



を応援する子供たちの姿は少数でしたが、PTA会員の皆様や幼稚園の先生方も順次駆けつけ、最後の一点まで応援している姿も感動的でした。

どの幼稚園もチームワークと絆を大切にスパイクにレシーブに汗を流しながらコートの中で白球を追う姿は、真剣そのものでした。試合も終盤になり、一点差にくやし涙をする姿、初めての勝利に応援団と共に喜び合う姿、それぞれのコートでいい汗・いい涙が見られ、応援している私たちが元氣とパワーを貰えた一日でした。

そんな素晴らしい大会において遅くまで子供たちを預かって下さった幼稚園の先生方、ありがとうございました。

最後に、県内各地からご参加下さいましたチームの皆様、本当にお疲れさまでした。そして、本大会開催にあたりご支援頂きました宮私幼連合会並びに各園長先生をはじめ運営にご協力賜りました役員、審判団の皆様感謝を申し上げます。

全日本私立幼稚園PTA連合会

全国大会報告



お人形社幼稚園 (T)

副会長 横澤 行夫

十二月五日に、東京・市ヶ谷の私学会館において全日本私立幼稚園PTA連合会全国大会が開催されました。「次代(あす)を担う子どものために」をテーマに第一部開会式、第二部こどもがまんなかプロジェクト報告、第三部記念講演がありました。前日に衆議院選挙が告示された中、全国の幼稚園PTAより約五百名が参加し、宮城県より五名出席いたしました。

深め、家庭が子どもにとって最も安心でき、共に学び合える場になるよう努めます。」等々、「学びの第一歩としての私立幼稚園」を実現するため、常に努力することを宣言し、宣言文を文部科学大臣代理の政務官に手渡しました。

第二部では、連合会がすすめている「こどもがまんなかプロジェクト」の国際的支援活動の報告がありました。第三部記念講演は、御子柴克彦先生(理化学研究所・脳科学総合研究センター)による「次代を担う子を育てるために」脳科学の視点から」の演題で講演がありました。その内容は、子どもは生まれる時、既にほぼ脳はできあがっている。脳と心は、心地よい快適な状態で育つとよく発達する。ヒトと脳と体の発達は、連続的なものである。自分の要求が分かってくれる人に赤ちゃんはなつく。子どもは、親を信頼し直す、はじめて、甘えたり、わがままを言うたりする。乳幼児期に大切なのは、「子どもと触れ合うこと」「抱きしめてあげること」「目を見てあげること」である。

開会式では、役職のある衆議院議員の方々や選挙活動のため欠席でしたが、代わりに挨拶されたのは参議院議員の方々でした。大会宣言では、「私たちは、子どもの教育の原点が家庭にあることを再認識し、家族が協力し合って絆を



子どもは、親の愛情を求めている。親も常に子どもの視線をしっかりと受け止めてあげること。甘

やかすのとは違う。規則正しい生活を心がけること。(睡眠時間、早寝早起き、好き嫌いをなくす)所謂、基本的な生活習慣は、脳の発達、心の発達に大いに影響する。家庭・幼稚園・小学校・中学校・高校・大学・社会と子どもが関わって行く環境は常に家庭とリンクしている。ストレスを解消する場合は、家庭である。それゆえ親子の信頼関係を築いていくのがいかに大切であるか、ということである。

脳が外からの刺激に適切してその情報を処理する過程を学習と言う。環境からの刺激を制御して学習を助ける過程を教育と言う。学習と教育は相互につながっている。しかし、教育や訓練によって感情の発達をうながすことはできない。行き過ぎた早期教育の弊害として、感情発達が障害される可能性があるとされています。全ては家庭の問題で、そこをきちんとしておけば大丈夫です。プラス思考で、いい親子関係を持ちましょう。親に愛されている、受け入れられている、という信頼関係が人に優しくなる・周囲に優しくなります。頑張ってください！



地区活動報告

平成二十四年度

気仙沼地区親睦研修会

「家庭でできる子供の心のケア」

愛耕幼稚園 (P)

島山 伸世



昨年七月十六日、気仙沼市民健康管理センター「すこやか」において、宮城県私立幼稚園PTA連合会気仙沼地区研修会を開催しました。

先に行われた総会で、「保護者がリラククスできる場も持てる」とよい。」という意見が出ました。そんな中、家庭でできる子供の心のケアというセミナーがあることを知り、早速連絡を取りました。

東日本復興支援機構という団体で、被災地の子供たちが受けた震災ダメージが、PTSD (心的外傷後ストレス障害) とならないように、心身ストレスを緩和するために家庭でもできるケア方法を記載した小冊子を作成している方々です。

今回の研修会は、その活動への協力・監修をなさっている先生方による講演を午前に行い、午後はリラククスできる呼吸法の実践という内容です。当日は園児の保護者、五つの幼稚園の先生方、一般の方にもご参加頂きました。

三名の講師の先生は、東京の学

校の先生でもあり、心理学のカウンセリングもなさっているそうです。

始めに講話をして頂いた小林先生は、物腰が柔らかい方で会場の雰囲気や穏やかにして下さいました。子供のトラウマが表に出るのは二、三年後、正に今から気を付けなければいけない、とのことでした。しかし頭で分かっている大人の中に余裕がないと実際に出来ないし、打たれた人ほど実は打たれ弱くなっている、自分だけが楽しめる時間を少し設けて、最後に「よくやってきたよね」「私は私でいいんだから」とゆったりとした口調で自分に言い聞かせてほしいとおっしゃっていました。

次に女性の早川先生のお話がありました。子供がイライラをぶつけてきた時、大人は頭ごなしに怒るのではなく、「どうしたの?」と相手の心の声を聴き、話を受け止めてやることによって安心感・安

定感が生じ、否定的な気持ちを消してあげることができるとのことでした。

また、院内学級の教師でもある副島先生によるバルーンアートや手品も披露され、終始和やかな研修会となりました。午後の呼吸法による研修会も、心と身体が温かくなりました。

子供の心と体調の変化を見て、それを受け止める...忙しい時や頑張っている時ほど気付いて向き合うのは難しいことですが、自分自身を見つめ直す時間を設けるのも必要なだと再認識しました。そして視点や話し方を改め、子供たちと接する普段の生活に活かしたいと思いました。

最後に、会を開催するにあたりご尽力下さった皆様に、この場をお借りして心より感謝と御礼を申し上げます。

平成二十四年度

名取・岩沼・山元地区親睦研修会

父母の会活動から学ぶ

岩沼こぼと幼稚園 (P)

大友 克寿



本年度、息子が幼稚園の「年長組」になることを機会に、父母の会の役員をお引き受けすることにしました。緊張しながら初めての役員会に出席しましたが、父親は私のみ。そして、そ

こで頂いた役職は「会長」でした。大きな不安と責任を感じながら、父母の会の運営をスタートさせました。

父母の会総会に始まり、父母の会主催の夏まつり、そして運動会のお手伝いなど、役員としての活動の多さに戸惑いながらも、園の二階にある和室で頻りに役員会を開催し、協議しながら活動に取り組んできました。

特に、毎年恒例の「こぼとなつまつり」は、お母さんたちでつくる手芸クラブなどにもお手伝いを頂いて準備と打合せを重ね、無事成功することができ、子どもたちにもたくさん笑顔をつくることができました。

また、本年度は名取・岩沼・山元地区の当番園として、十一月に研修会を開催しました。企画の段階で意識したことは、参加する皆さんにリフレッシュしてもらいながら、何か「かたち」に残るものを、ということでした。時節柄もあり「クリスマスリースづくり」を開催することにしました。当日は地区内の園から約三十名の皆さんにご参加頂きました。講師には、地元で園芸店を営みながらフラ



ワードデザイナーとして各地で教室や講習会を行っている先生をお招きし、和やかな雰囲気の中で、皆さんに熱心に取り組んで頂きました。約二時間かけて制作したクリスマスリースでしたが、皆さんに思い思いの作品を作り上げてお持ち帰り頂きました。とても好評

だったのではないかと思っています。改めて父母の会で役員を経験させて頂いた一年を振り返ると、息子のおかげでさまざまな出会いや勉強する機会があり、息子の成長と共に自分も成長する機会を頂いたと感じています。また、一緒に活動する役員のお母さんたちの活気に圧倒されながら、ときに主婦の話題に戸惑いながらも、皆さんにパワーを分けて頂いたような気がしています。そして何より皆さんにご協力を頂き、何とか会長を務めることができたことに感謝の気持ちで一杯です。

さらには、子どもたちをいつも温かい目で見守り、ときに厳しく指導して下さいました園長先生・先生方、そして関係者の皆さまの思いやその姿に触れることができたことも貴重な経験となりました。

今後、幼稚園を卒業する子どもたちが、小・中学校・高校、そして大学と進学して成人となられ、将来地域を背負い、さまざまな舞台で活躍することを心から楽しみにしています。

知事陳情と

これからの課題

副会長 稲 富 將 夫

新しい年を迎え、会員の皆様には益々ご健勝のことと存じます。東日本大震災から二年目になりま

さて、一月八日午前十一時から県庁会議室にて村井知事への新年表敬訪問と平成二十五年度私立幼稚園に対する補助金等の増額に関する陳情書をお渡ししました。



いことと同時に、震災に伴う園児数の減少による収入激変緩和措置を早急に講じて頂きたいことを陳情しました。

平成二十四年度には、東日本大震災による被災園並びに被災家庭に対し復旧支援補助対策が強化され、支援物資の調達なども迅速かつ適切にご配慮賜り、改めて感謝致します。

宮城県内の約八十%を占める私立幼稚園が、今後健全かつ安定した経営の将来像を確立し、震災による保護者への教育費などの負担軽減の課題達成こそ切実な要望であることを強く訴えました。

次に大震災は地震、津波の外、福島原発の放射性物質から園児を守る環境の充実が緊急の課題です。放射線量検査を的確に実施し、高い数値の場合は、園庭の表土の改善、施設設備（特に遊具）の洗浄、保健室等の環境改善など放射線に関する低減化事業制度を創設して頂きたい。知事への陳情後、県議会中村議長に、同様の陳情書を提



出しました。両氏共に最後まで熱心に耳を傾け、出席されたお母さん方やお子様たちにも温かい言葉をかけておられました。

陳情内容の実現については、誠意をもち、最善の努力をするということを約束してくれましたことを、ここに報告致します。

受賞！瑞宝双光章
おめでとうございます

去る平成二十四年六月十三日(水)勝山館において、春の叙勲で瑞宝双光章を授与された清野幸雄先生(東仙台幼稚園園長)の受賞祝賀会が、宮私幼主催で開催されました。

清野幸雄先生は、現在八十三才。これまで幼児教育に永年携わり、その振興と発展に寄与された功績に対しての受賞です。

先生は、昭和三十九年六月に宮城県私立幼稚園PTA連合会が設立された時から、昭和五十二年五月までの十三年間役員として、ご尽力頂きました。特に、連合会の事務局を担当して頂き、宮私幼PTA連合会の基礎づくりをなされたと同っております。

清野幸雄先生の今回の叙勲に、会員一同、心からお祝いを申し上げます。
〈副会長 横澤行夫〉



お知らせ

平成二十五年度行事予定

平成二十五年度

宮私幼PTA総会

期日 平成二十五年六月六日(木)

会場 仙台市民会館小ホール

宮私幼教育振興大会並びに

宮私幼PTA研修大会

期日 平成二十五年七月十一日(木)

会場 仙台国際センター

宮私幼PTA親睦

バレエボール大会

期日 平成二十五年十月十二日(火)

会場 グランデイ21

平成二十四年度 広報部員

- 副会長 稲富 將夫(実本はなぎT)
- 事務局長 小野 暢彦(清水 T)
- 事務局次長 菅原 彰(すがわらT)
- 部長 櫻田 正志(七郷 T)
- 副部長 高田 和枝(角田カトリックP)
- 部員 鈴木 順子(七郷 P)
- 部員 小山 郁子(愛耕 T)
- 部員 島山 伸世(愛耕 P)
- 部員 小野寺洋一(角田カトリックE)

あとがき

歲月人を待たずの言葉通り、巳年も早いもので、弥生、三月の暖かさと同時に、少しずつ歩み続けています。

私立幼稚園の三学期は、保育日数が少ないにもかかわらず、お別れ会、卒園式、修了式などの行事が目白押しです。園児たち、先生方は、その準備や取り組みに余念がありません。そして保護者の方々は、お子様の成長を一番確かなものにてできる時季ではないかと思えます。

そのような喜びや忙しさの中でも、忘れることができないのが三月。誰もが予想できなかった東日本大震災から二年が経過しようとしています。復興もままならず、これから何年かかるか想像もつきませんが、風化させることなく、一日でも早く以前の姿に戻ってほしいと願っています。

さて、今回の宮私幼PTA便り第八十一号の発行にあたり、多数の方に原稿を依頼致しましたところ快くお引き受け頂き有り難うございます。この一年間の「研修や活動の歩み」をお届けすることができ、大変嬉しく思います。最後になりましたが、会員の皆様のご協力に改めて感謝申し上げます。

広報部長 櫻田正志